

環境配慮行動普及促進事業費補助金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）推進事業）

審査委員の意見を踏まえた総評

（令和8年3月13日～令和8年4月15日公募）

【全体】

・「くらしの10年ロードマップ」（令和6年2月策定。以下、「ロードマップ」という。）に則して、国民（消費者・働き手）にとっての行動制約要因（ボトルネック）を課題として認識し、そのボトルネックを構造的に解消するための仕掛け（取組・対策）について、具体的な検討がなされ、明確に表現されている等、本補助金の制度の趣旨に合致している申請を高く評価した。

・事業実施により、業界の内外に対し、広くボトルネックの構造的な解消に向けた効果を与え得ると考えられる申請を高く評価した。

・本補助金を活用した脱炭素に資する製品・サービス・行動等のプロモーションについては、当該製品・サービス・行動等の認知度の向上を通じて、上述のような、業界内外に対して広くボトルネック解消の効果を与えることを目的とする必要があるところ、この観点で、本補助金の用途が明確化された上で、事業実施者が自社の製品・サービスの販路促進との棲み分けが明確になされていることが必要である点に留意した。

・また、本補助金を事業の運営に当たって継続的に発生する経費に対して充てる場合は、翌年度以降補助金に代わる財源を補填する手段が明確になっている等、補助事業終了後も事業が継続、発展していくと見込めることが必要である点に留意した。

・さらに、事業効果の更なる増大を目指し、国として支援する必要性が高いCO2削減効果の高い取組や行動変容・ライフスタイル転換の波及効果の大きい取組に発展していくことが見込める取組である点に留意した。

上記の各項目を踏まえ審査を行った結果、ボトルネックの構造的な解消に資する具体的な仕掛け（対策・取組）が認められる事業として、「ロードマップ」で位置づけしている住、衣、移動及び基盤の分野において、事業の採択となった。

・本事業をきっかけに更なる消費者のライフスタイル変容や脱炭素に貢献する行動変容の拡張、発展に繋がる取組を期待する。

【住】

・「ロードマップ」に記載している、「スマートホーム機器を広く普及させる機会の創出」について、暖房・給湯用のエネルギー消費が大きい寒冷地特有の特徴に着目し、スマートホームアプリを通じた最適制御により脱炭素を促進する事業内容の申請を評価した。

【衣】

・「ロードマップ」に記載している、「国民がサステナブルファッションを実践・体感できる機会の創出」について、エリアを限定して標準化されたプラットフォームを提供するなど類似の取組と一線を画した独自性のある事業内容の申請を評価した。

【移】

・「ロードマップ」に記載している、環境負荷がより少ない移動手段の選択を実践できる機会の創出に向けて、住環境や行動範囲が特定できている離島を対象としてモビリティマネジメントの最適化を図る事業内容の申請を評価した。

【基盤】

・「10年ロードマップ」に記載している、「全ての生活領域で行動変容が促される経済的・社会的なインセンティブの創出」に関する事業内容の申請を評価した。具体的には、自治体とも連携しつつ、事業者がこれまで培ってきたエンタテインメントの知見を最大限活用し、アプリケーションを通じて脱炭素行動を国民・消費者に提供する取組や、圧倒的なカバレッジを誇る EC プラットフォームを活かして、個人カーボンアカウントを付与することで購買連動型の行動変容につなげる取組や、実行動を対象に広範な顧客属性データに基づき環境表示の効果を直接測定する取組や、県と小売事業者が連携することで購買活動に連動する形で行動変容を促す事業内容の申請を評価した。

以上